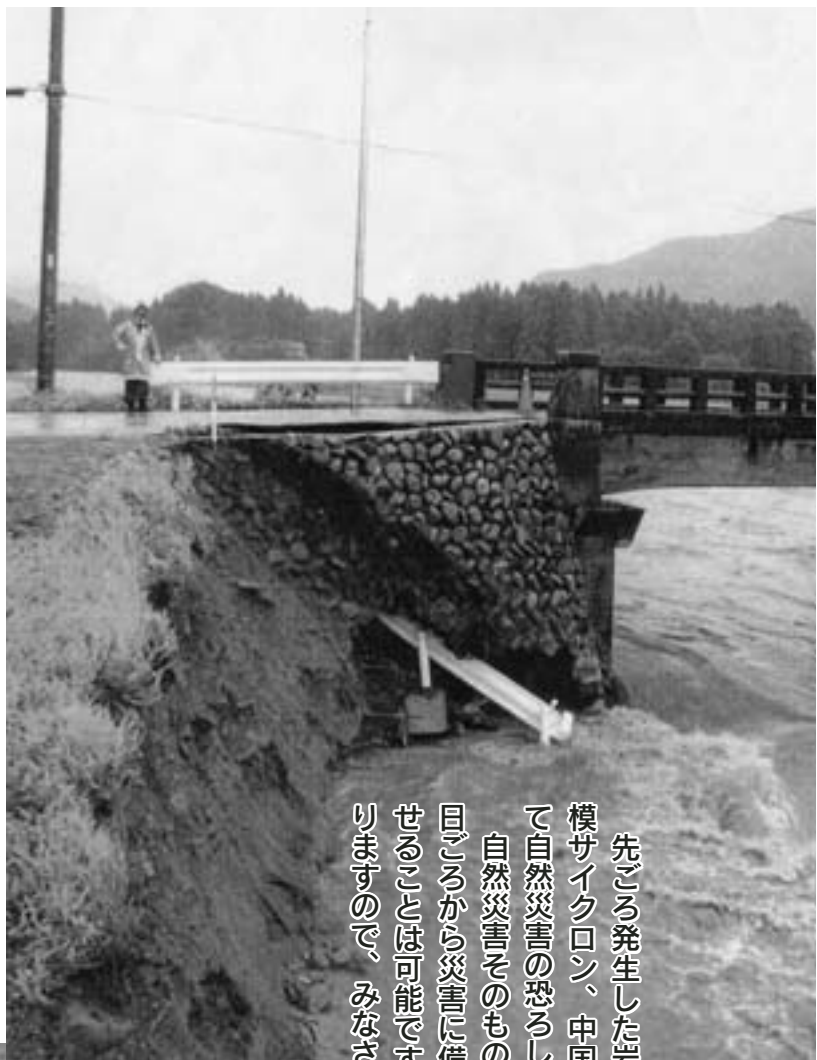


# 風水害に備えましょう

総務課総務係  
☎(63)2138



昨年の台風9号により崩落した黒川堤防(板荷地区川化橋下流) ▶▶



本市では、今年3月に土砂災害警戒区域が指定され、5月には黒川の浸水想定区域が指定されました。これらの土砂災害や洪水の危険があると予想される区域や避難に関する情報を表示した地図(ハザードマップ)を今年度中に作成し、お知らせする予定です。

先ごろ発生した岩手・宮城内陸地震やミャンマーの大規模サイクロン、中国四川大地震の被害状況を見ると、改めて自然災害の恐ろしさを感じます。

自然災害そのものを防ぐことは非常に難しいことですが、日ごろから災害に備えた準備をしていれば、被害を減少させることは可能です。これから台風や大雨が多い季節となりますので、みなさんも風水害への備えを確認しましょう。

## 最新の情報を入手し、 早めの行動を!

風水害はある程度予測が可能ですが、最新の気象情報や防災関係機関の防災情報に注意してください。

「避難準備情報」が発令された場合や危険を感じた場合には、家族や地域で協力して避難の準備を始めてください。避難に時間のかかる人(災害時要援護者等)は早めに避難してください。

「避難勧告」や「避難指示」が発令された場合には、防災関係機関等の指示に従い、指定された避難所に避難してください。

## 土砂災害に注意!

土砂災害(土石流・急傾斜地の崩壊・地すべり)が起きやすい箇所は多数存在しています。台風や集中豪雨による大きな被害が予測されますので、自主防災会等による地域での警戒が必要です。

「土砂災害警戒情報」が発令された場合には、早めの避難を心がけてください。

## 洪水に注意!

大雨により河川が増水すると、雨水がはけきれずに地域内が浸水する場合があります。浸水被害が広がると避難することが困難になりますので河川の水位情報や「洪水予報」などに注意しながら、早めの避難を心がけてください。

## こんな情報が出た時は…

	発令時の状況	市民の行動	判断基準
避難準備 情報	特に避難行動に時間を要する人（要援護者等）が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が高まった状況	特に避難行動に時間を要する人（要援護者等）は、計画された避難場所への避難行動を開始する。（避難支援者は支援行動を開始する） 上記以外の方は、家族等との連絡、非常用持出品の用意等、避難準備を開始する。	<b>【浸水想定区域】</b> 「はん濫注意情報（洪水注意報）」が発表されたとき
避難勧告	通常の避難行動ができる人が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況	通常の避難行動ができる人は、計画された避難場所等への避難行動を開始する。	<b>【災害共通】</b> 災害の前兆がある場合 <b>【浸水想定区域】</b> 「はん濫警戒情報（洪水警報）」が発表されたとき <b>【土砂災害危険箇所】</b> 土砂災害警戒情報が発表されたとき
避難指示	前兆現象の発生や現在の切迫した状況から、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況 堤防の隣接地等、地域の特性等から人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況 人的被害の発生した状況	避難勧告等の発令後で避難中の住民は、確実な避難行動を直ちに完了する。 未だ避難していない対象住民は、直ちに避難行動に移るとともに、その時間がない場合は生命を守る最低限の行動をとる。	<b>【災害共通】</b> 切迫した災害の前兆があるとき <b>【浸水想定区域】</b> 「はん濫危険情報（洪水警報）」が発表されたとき
土砂災害 警戒情報	県と宇都宮地方気象台が共同で発表するもので、大雨による土砂災害のおそれがある時に市が発令する避難勧告等の判断基準となり、住民が自主避難するための参考情報です。3時間後の降雨量と土壌に含まれる雨量を予測し、土砂災害の発生する危険が非常に高まった時点で発表されます。平成20年3月から本格運用された新しい気象情報で、大雨警報中に発表されるものです。		
洪水予報 （洪水警報） （洪水注意報）	鹿沼市の場合、黒川（富岡行川合流点より下流）と思川（深程大芦川合流点より下流）において、基準地点の水位を示して洪水発生等の危険度を表すもので、県と気象庁が共同で発表するものです。		